

# 大豆をめぐる情勢について

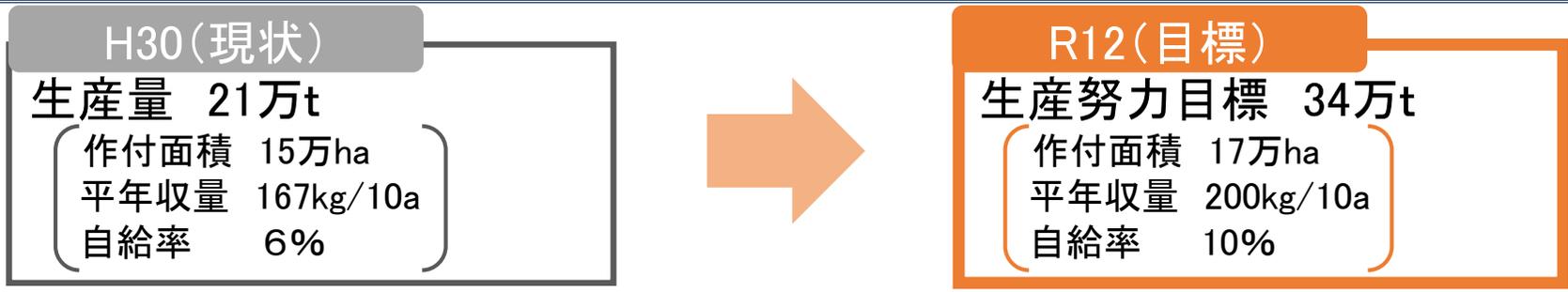
---

令和4年10月17日

農林水産省 農産局 穀物課 豆類班

# 1 食料・農業・農村基本計画

- 令和2年3月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」において、大豆の**生産努力目標を34万トン**に設定。
- 実需者の求める量・品質・価格に着実に応えるため、食品産業との連携強化を図りつつ、団地化やスマート農業によるコストの低減、排水対策の更なる強化、耐病性・加工適性等に優れた新品種の開発・導入等を通じて、生産量の向上を推進する。



国産原料を使用した大豆製品の需要拡大に向けた生産量・品質・価格の安定供給

- ・播種前契約の推進
- ・安定供給体制の構築に向けた民間保管体制の整備



耐病性・加工適性等に優れた新品種の開発導入の推進

- ・地域に最適な稲・麦・大豆の品種の組合せと栽培法の確立実証の実施

センシング技術を活用し品種の組合せと栽培方法を最適化



ほ場条件に合わせて単収向上に取り組むことが可能な環境の整備

- ・スマホWeb診断等、生産者自らが圃場毎の低収要因を把握し改善する取組を推進

Web診断



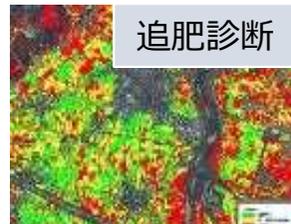
## 団地化・ブロックローテーションの推進、排水対策の更なる強化やスマート農業の活用による生産性の向上

- ・補助暗渠施工、心土破碎等の営農排水対策による排水性改善



心土破碎

- ・生育予測システムや営農データの活用法の周知・現場への浸透



追肥診断



スマート農業の活用

- ・人への集積・集約と作物の集約を連携して実施





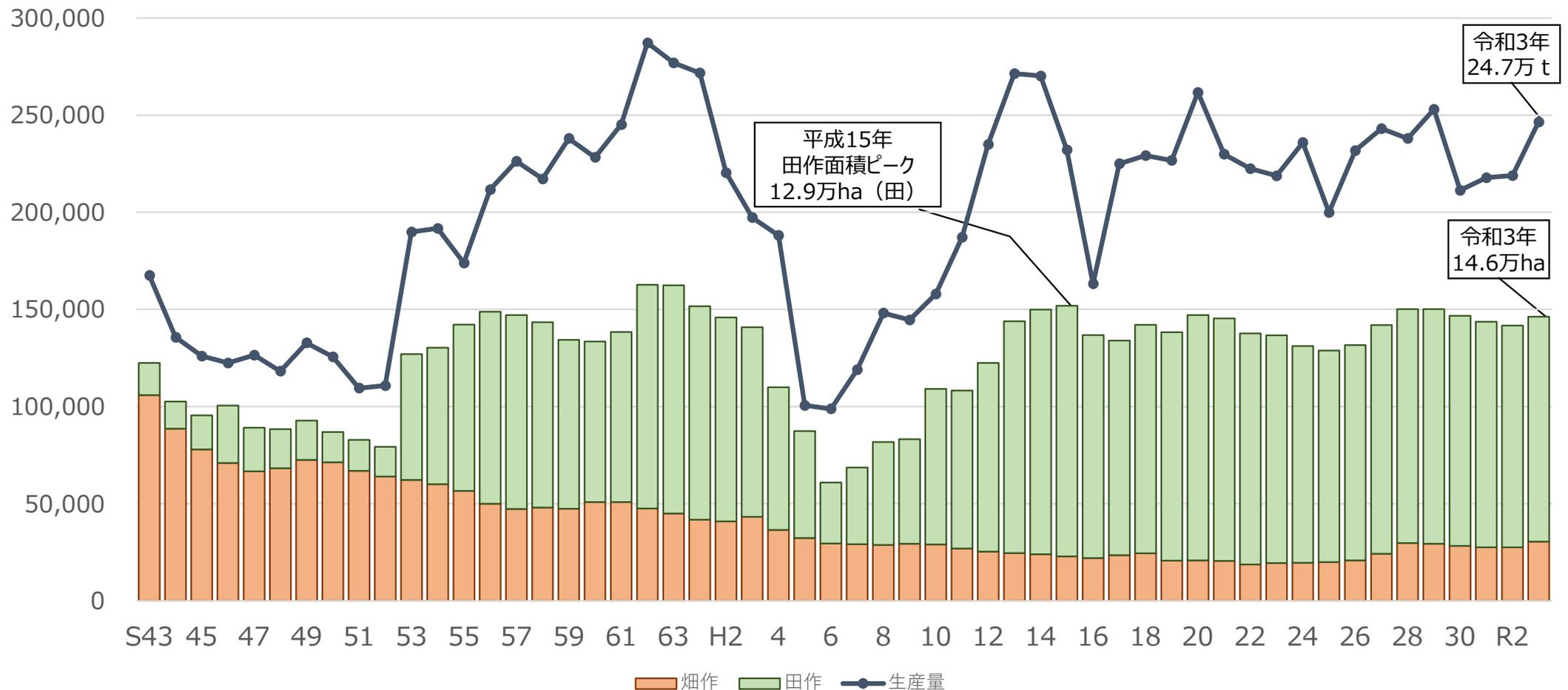
団地の推進

## 2 生産量・作付面積の推移

- 大豆の生産量は、気象災害の影響等により大きく減少する場合があるが、令和3年産の生産量は九州の一部地域を除き、概ね天候に恵まれたため、**前年比13%増**の24万6,500 tとなった。
- 令和3年産の作付面積については、全国的に増加し、前年比3%増の14万6,200haとなった。令和4年産についても引き続き増加する見込み。

(単位：ha、トン)

国産大豆の生産量・作付面積（田畑別）の推移



資料：統計部「作物統計」

(昭和59年までの畑作面積は、田畑計から田作を除いた値)

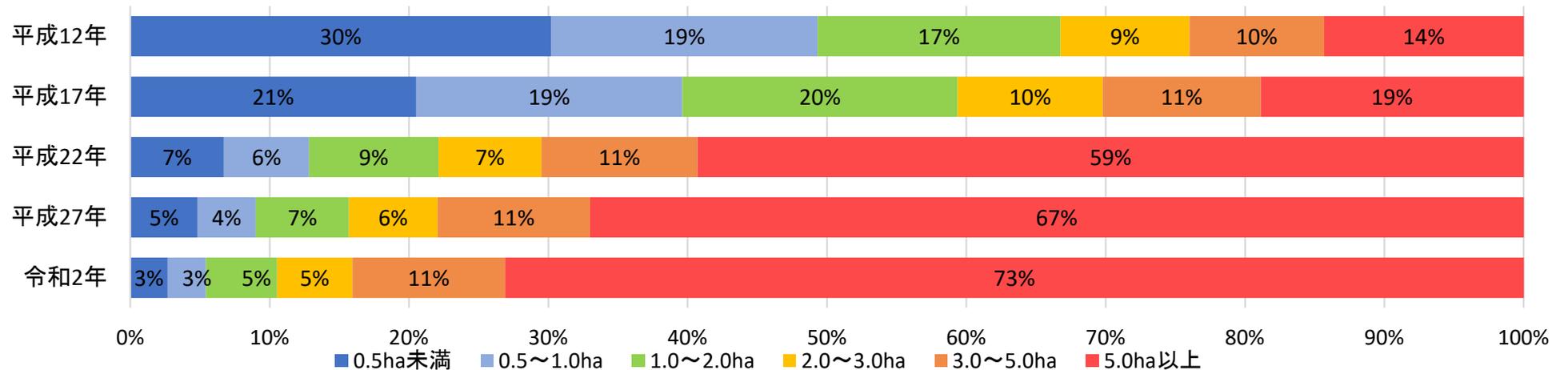
### 3 農家戸数と経営規模

○ 大豆の作付面積 5 ha以上の農家の面積シェアは、平成12年の14%から、令和2年の73%へと約58ポイント上昇し、規模拡大の大幅な進展がみられる。

○ 農家戸数と作付面積の比較

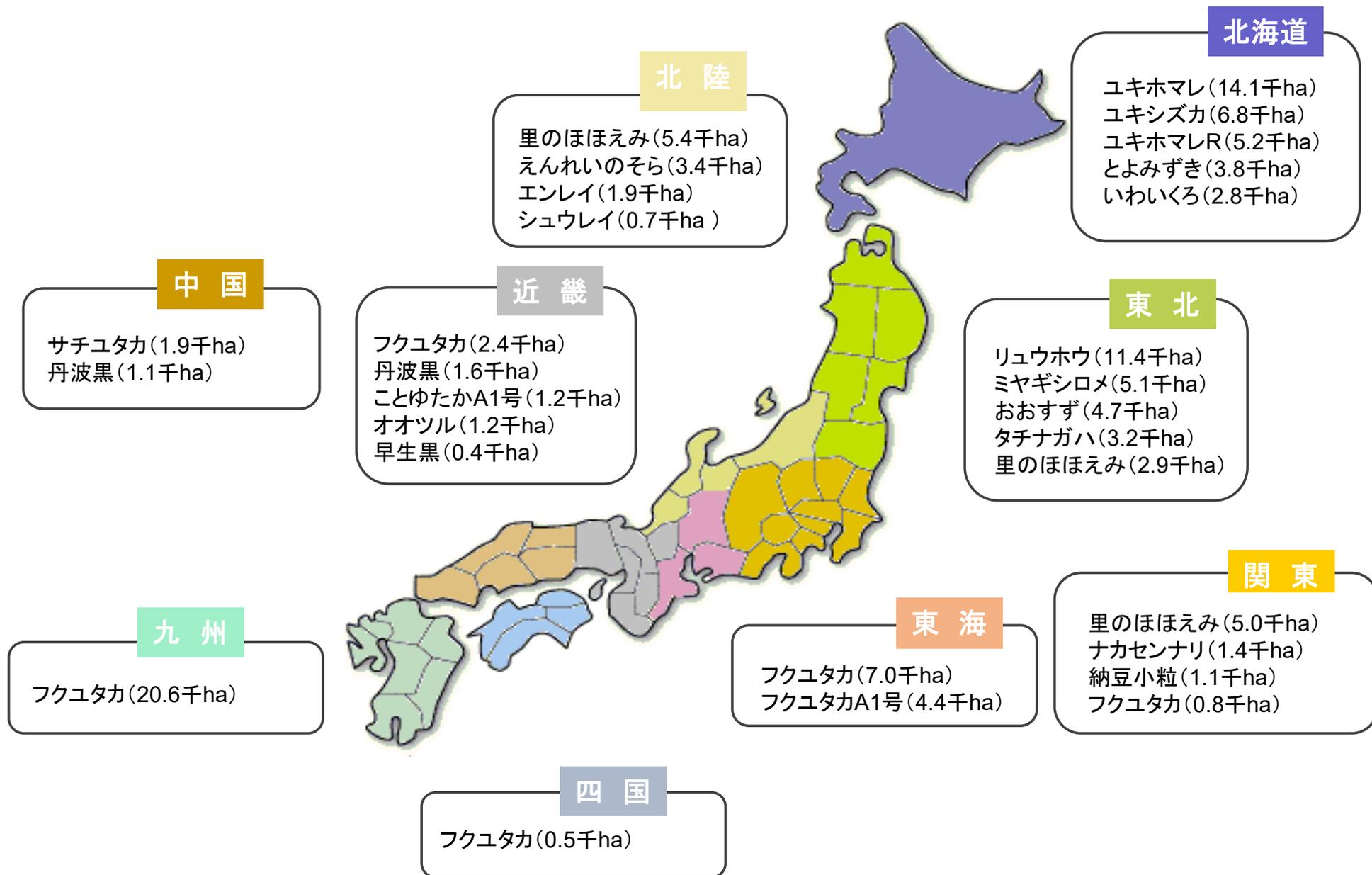
	平成12年(2000年)				令和2年(2020年)			
	戸数	シェア	面積	シェア	戸数	シェア	面積	シェア
0.5 ha 未満	129,737戸	82%	17,082ha	30%	25,209戸	51%	3,554ha	3%
0.5～1.0 ha	16,279戸	10%	10,821ha	19%	5,301戸	11%	3,609ha	3%
1.0～2.0 ha	7,572戸	5%	9,855ha	17%	4,949戸	10%	6,754ha	5%
2.0～3.0 ha	2,276戸	1%	5,241ha	9%	3,063戸	6%	7,153ha	5%
3.0～5.0 ha	1,506戸	1%	5,466ha	10%	3,830戸	8%	14,435ha	11%
5.0 ha 以上	907戸	1%	8,104ha	14%	3,379戸	15%	96,579ha	73%

○ 経営規模別作付シェアの推移



資料：農業センサス (注) 平成12～17年までは農家数、22年からは経営体数

# 4 各産地の主な品種



注) 括弧内の面積は令和2年産の作付面積(穀物課調べ)

# 5 普及が期待される主な新品種の例

## 里のほほえみ

倒れにくく、高収量が見込めます。

倒れにくく大粒良質でタンパク含有量が高い

(導入予定：東北・関東・北陸)

➤ 倒伏性の比較



(奥：里のほほえみ、手前：既存品種)

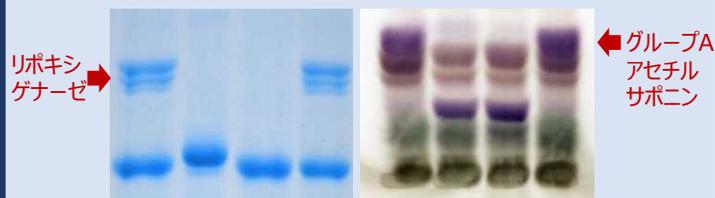
## すみさやか

青臭みのない豆乳ができます。

青臭さを生む原因となるリポキシゲナーゼとグループAアセチルサポニンが欠失している

(導入予定：関東以西)

➤ リポキシゲナーゼとグループAアセチルサポニンが欠失している様子



(左から、フクユタカ、きぬさやか、すみさやか、サチユタカ)

## とよまどか

甘くて良く固まる豆腐ができます。

ショ糖含有率が高く、豆腐加工適性に優れ、低温抵抗性が高い

(導入予定：北海道)

➤ 低温栽培による裂開の様子



(とよまどか)

(ユキホマレ)

## 難裂莢性品種

収穫ロスが抑制され、高収量が見込めます。

これまでの品種に莢がはじけにくい性質（難裂莢性）を付与し、コンバイン収穫時のロスを抑制

- フクユタカA1号 (導入予定：東海)
- サチユタカA1号 (導入予定：中四国)
- えんれいのそら (導入予定：北陸)

➤ 乾燥時の莢の様子



(難裂莢性品種)



(既存品種)

# 6-1 大豆の需要動向

- 大豆の需要量は、中期的に増加傾向で推移しており、令和3年度は約356万トンとなった。食品用についても需要は堅調であり、近年は約100万トンで推移している。
- 国産大豆は、実需者から味の良さ等の品質面が評価され、ほぼ全量が豆腐、煮豆、納豆等の食品向けに用いられる。令和3年度の食品向けに用いられる**国産大豆の量は、昨年より2万8千トン増加し、約24万トン**となった。

## ○ 我が国における大豆の需要状況

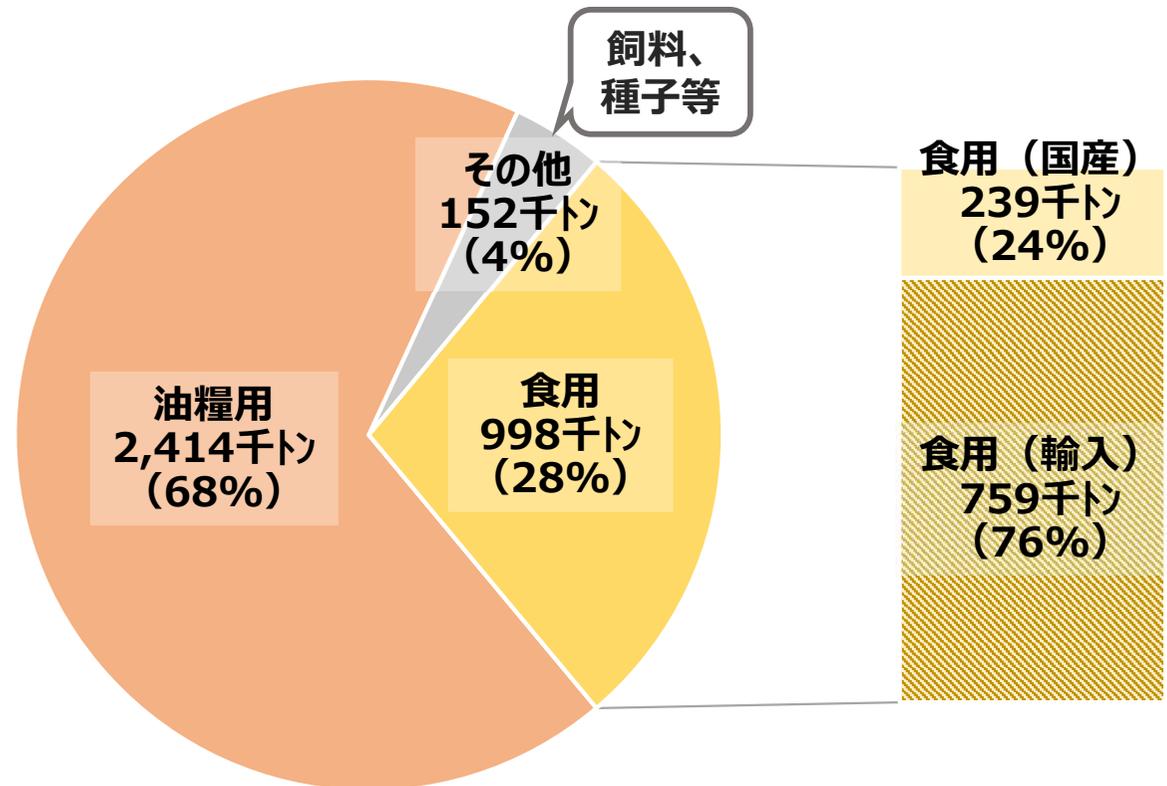
(単位：千トン)

	需要量	うち食品用		自給率
		うち食品用	うち国産	
H28年度	3,424	975	231	7%
H29年度	3,573	988	245	7%
H30年度	3,567	1,018	203	6%
R元年度	3,683	1,030	210	6%
R2年度	3,498	1,053	211	6%
R3年度 (概算)	3,564	998	239	7%

出典：食料需給表

注：「うち国産」は穀物課推定。なお、「うち国産」に種子分は含めていないが、「自給率」は種子分を含めて算出している。

## ○ 我が国の大豆の需要量(令和3年)



出典：食料需給表

注：四捨五入の関係で、100%に一致しない場合がある。

# 6-2 大豆の需要動向

- 今後の食用大豆の需要見込みについて、実需者にアンケートを実施した結果、全業界において**今後5年間の使用量は増加見込み**。
- 価格・供給量・品質の安定が前提となるが、消費者ニーズへの対応や高付加価値化に向け、**国産大豆の需要が堅調となる見込み**となっている。特に、供給量の安定している北海道産を希望する実需者が多い

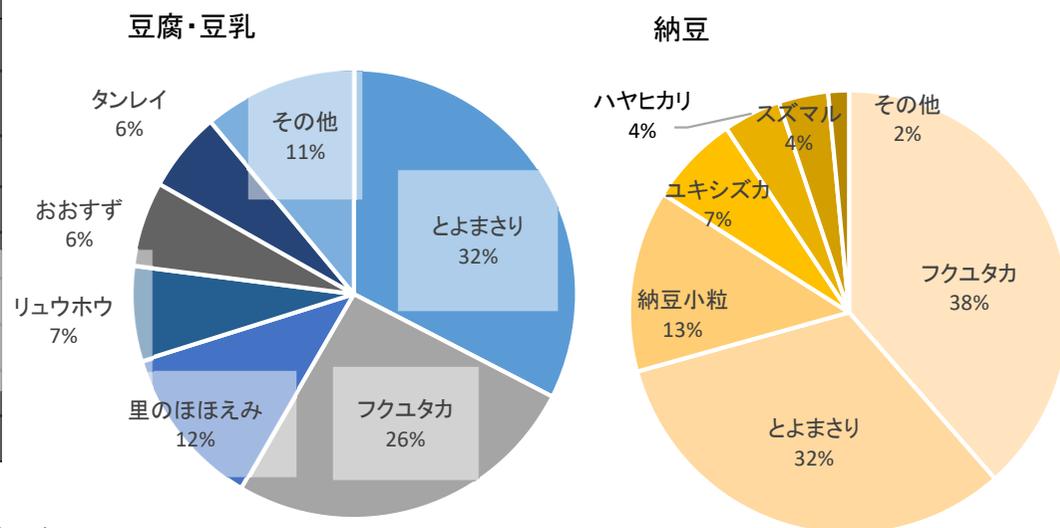
## ○ 食用大豆の需要見込みについて

	R2年度実績数量		R3年度		R4年度		R8年度	
	(千トン)	うち国産	需要見込み	うち国産	需要見込み	うち国産	需要見込み	うち国産
<b>全体</b>	<b>1,053</b>	<b>211</b>	<b>102%</b>	<b>103%</b>	<b>104%</b>	<b>106%</b>	<b>114%</b>	<b>126%</b>
豆腐・豆乳			101%	103%	104%	104%	118%	129%
納豆			103%	103%	103%	104%	103%	104%
煮豆			102%	102%	101%	103%	102%	105%
味噌			100%	102%	101%	102%	102%	104%
醤油			100%	108%	109%	104%	112%	106%
その他			100%	101%	105%	102%	109%	107%

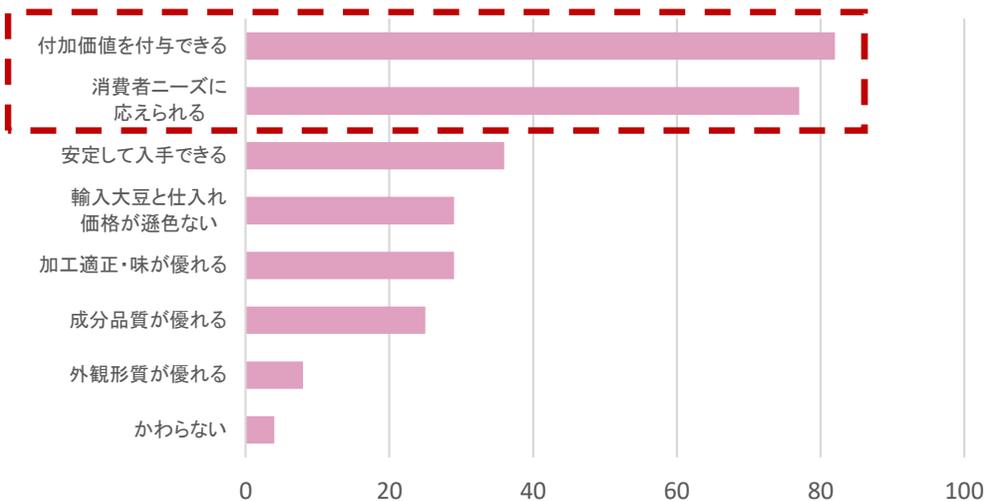
※ R2年実績数量は「食料需給表」を基に、穀物課推計。

※ R3年以降の需要見込みは各業界団体からのアンケート結果（豆腐、豆乳、納豆、煮豆、味噌、醤油、きなこ：n=107）を基に、穀物課推計。なお、需要見込みについては、R2年の実需者実績を基準とした比率を示す。

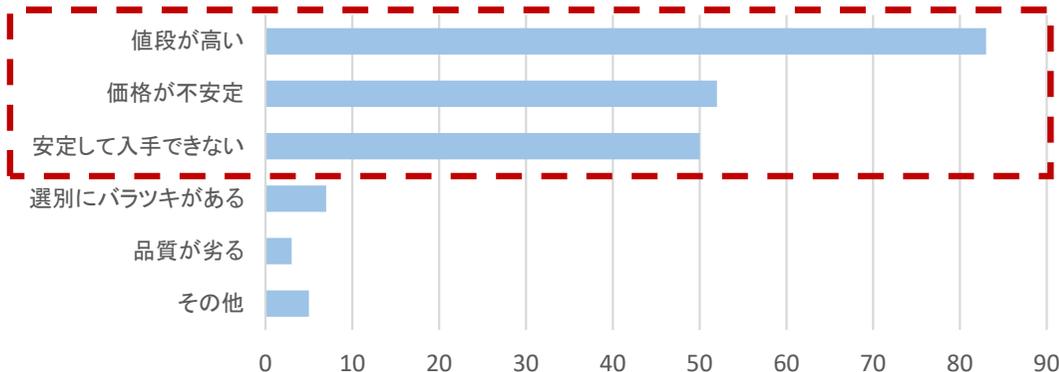
## ○ 国産大豆の使用品種内訳



## ○ 国産大豆を増やす理由



## ○ 国産大豆を減らす理由



※ 各項目の数値は各大豆製品メーカー全回答数における回答者数の割合（複数回答可）。  
国産大豆を増やす理由の全回答数=290、国産大豆を減らす理由の全回答数=200

# 6-3 大豆の需要動向（大豆ミートの開発・販売状況）

- 大豆ミートは、主に脱脂加工大豆からタンパク質を取り出して肉様に加工した食品。食料不足・環境問題の観点から世界的に関心を集め、近年、我が国でも**多くの大手食品メーカーが参入**。
- 現時点で輸出に取り組む企業はほぼ見受けられないが輸出を視野に入れる企業も出現。
- 現在、**価格の問題から搾油済海外産大豆（脱脂加工大豆）を使用したものが多く、国産大豆を使用した商品は限定的だが、一部企業は国産使用に前向き**。



## ○大豆ミートの製法例



## ○国産大豆使用の可能性

### ◆ DAIZ株式会社

令和2年より事業化。特殊条件下で発芽させた丸大豆を使用することで、既存の大豆ミートに比べ飛躍的に風味・食感が向上した「大豆肉」製造の特許を持つ。

味の素やニチレイフーズらと提携し、イオンやフレッシュネスバーガーを通じて販売。今後は輸出も視野に入れている。



ニチレイ「大豆ミートのハンバーグ」

### ◆ (株) アジテック・ファインフーズ

北海道産大豆を主原料とし大豆臭を抑えた工法で、こだわりの大豆ミートを製造。

ベジタリアンフードを扱う(株)かるなあをはじめとした小売店や植物性ハム向けの原料製造を行う。



かるなあ「大豆まるごとミート」

## ○日本農林規格（JAS規格）の制定

令和2年より、大塚食品株式会社が検討主体となり、大豆ミートのJAS規格制定に向けた検討を開始。



## ○世界の人工肉（大豆ミート含む）市場規模予測



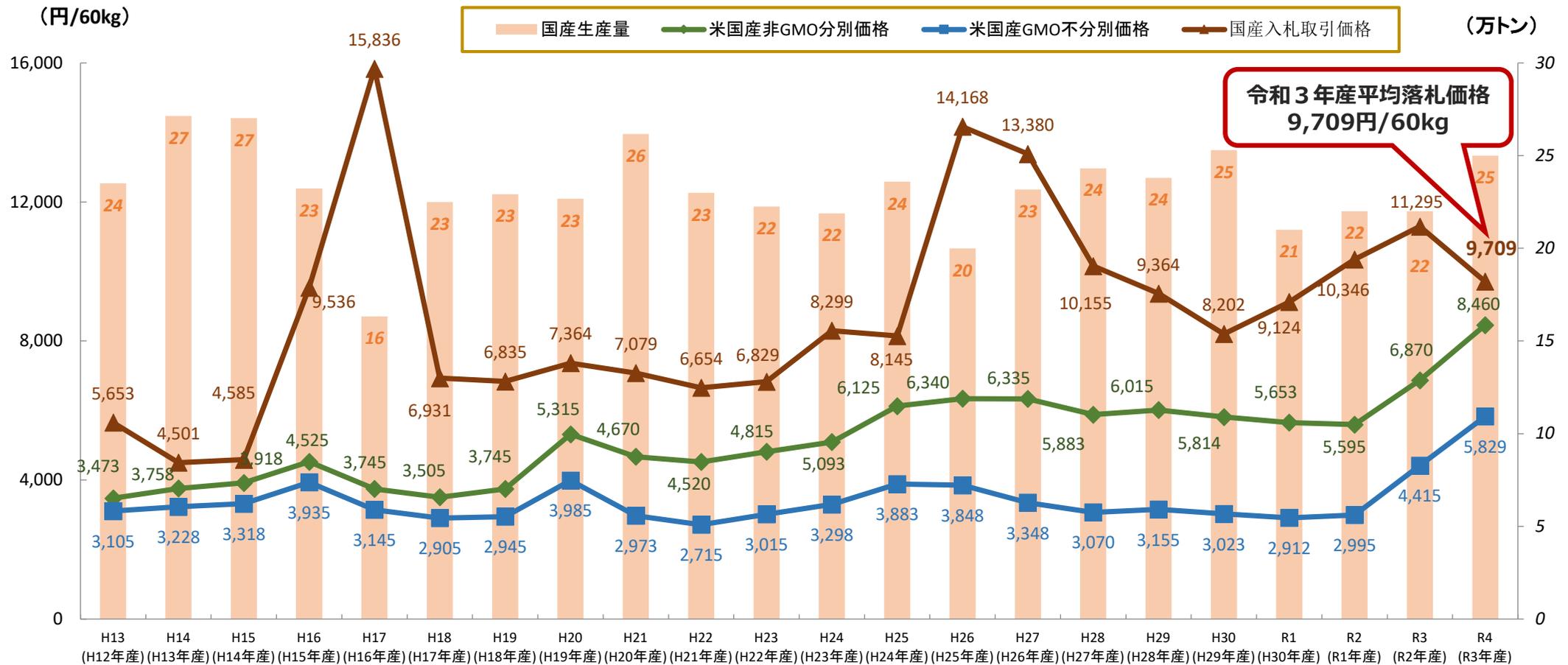
6年で約2倍に成長

出典：MDB Digital Search (2019)

# 7 大豆の価格動向

- 大豆の生産は、気象災害の影響等により減少する場合があります、これに伴い、価格も大きく変動。
- 国産大豆の価格の安定は、国産大豆の継続的な使用のための重要な条件の一つであり、**実需者から安定生産を求める声**が強い。

## ○ 国産大豆の生産量、大豆の国産価格・海外産価格の推移



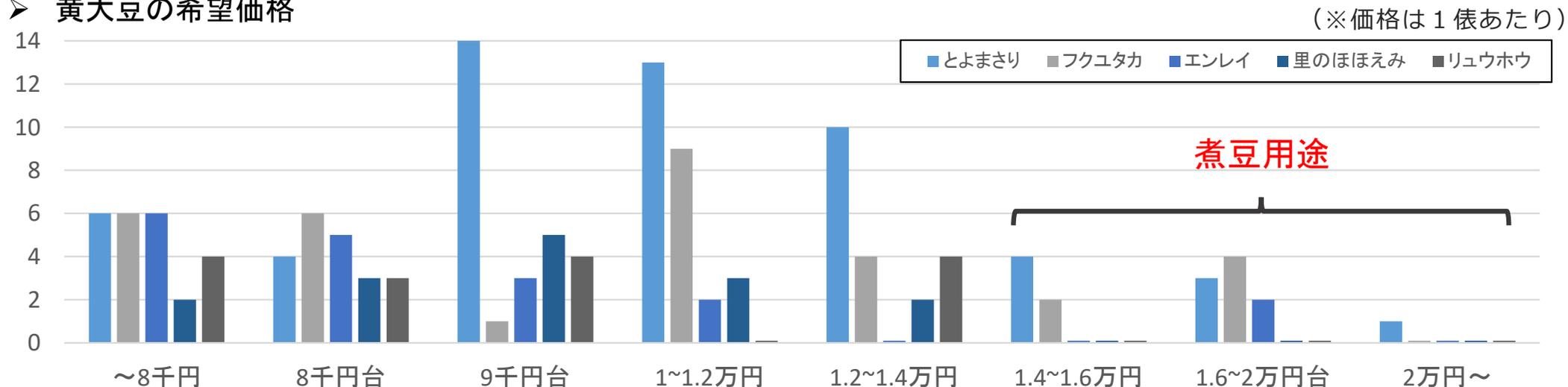
注1. 米産非GMO分別及びGMO分別は、日経商品主要相場で暦年(R4は7月時点まで)による平均価格(税抜)。  
 注2. 国産入札取引価格は、(公財)日本特産農産物協会における入札結果で各年産の平均落札価格(税抜)。

# 8 品種別メーカー希望納入価格

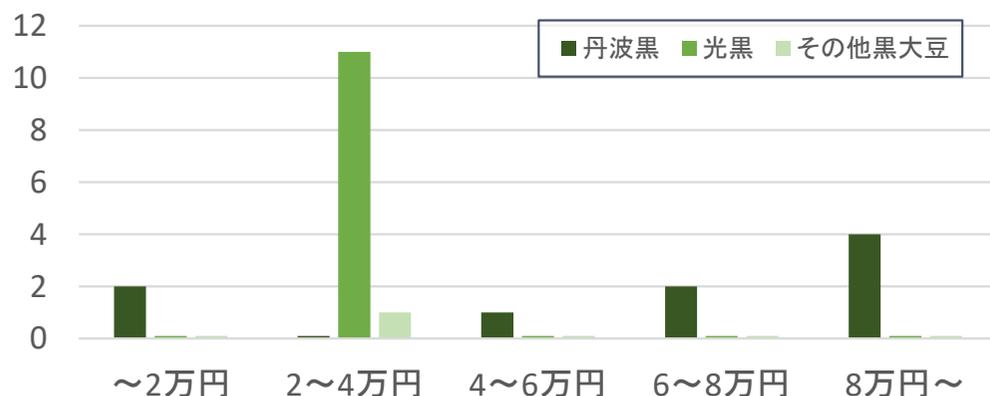
- 黄大豆は1万円/60kgまでの価格帯を希望する者が約7割を占めた。
- 煮豆用大豆は他業界と異なり、黒大豆については光黒は2～4万円/60kgが多く、丹波黒は大きさに応じ価格帯がわかれた。黄大豆についても1.4万円/60kg台以上の希望が見られる。
- 希望価格で納入できる場合、使用量は2割程度伸びる見込み。

## ○ 品種毎のメーカー希望納入価格

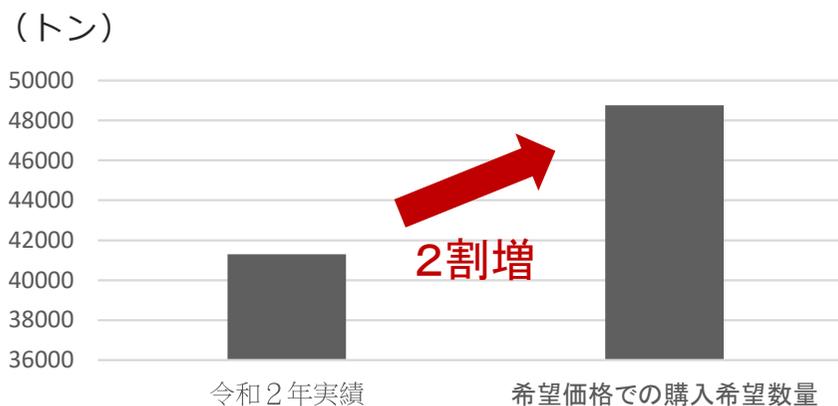
### ➤ 黄大豆の希望価格



### ➤ 黒大豆の希望価格



### ➤ 希望価格で購入できる場合の購入希望数量



※ 各業界団体からのアンケート結果（豆腐、豆乳、納豆、煮豆、味噌、醤油、きなこ：n=107）を基に、穀物課推計。11

# 9 実需・生産者のマッチング強化を通じた需要・生産拡大

- 国産大豆の供給の課題として、安定化が求められており、収量の安定している北海道産大豆のニーズが高い。**生産現場に実需者のニーズを生かすことが重要。**
- **地方ブロック別の情報交換会**を農政局主導で行い、産地が実需とマッチングする機会を設け、産地側に実需側の期待等を認知してもらうことで、更なる生産意欲の喚起（生産性の向上）・需要の拡大を図っていく。
- 今後は、**都道府県・市町村段階での取り組みも強化していく必要。**

## ➤ ブロック別情報交換会

想定されるテーマ：当該ブロックにおける需給動向  
 用途別に求められる品質・量  
 新規需要（大豆ミート、大豆粉など）に  
 向けた品種切り替え など  
 参加者：農政局、都道府県、地元製造メーカー、産地（JA）、研究者等

**(ブロック段階の取組)**

麦豆プロ推進  
 費等を活用

## ➤ 都道府県における推進

参加者：都道府県、生産者、管内製造メーカー、  
 問屋、産地（JA）、県本部・経済連等

**(都道府県段階の取組)**

相互に連  
 携を図る

## ＜ブロック別情報交換会＞

- ・ 農政局単位で実施。
- ・ 農政局主導で地元実需の要望と単協・生産法人など産地側の対応可能性を意見交換  
 （実需のニーズを直接生産者に届けることで、生産意欲を喚起）
- ・ 研究者から当該業界に合った新品種等を紹介



# 麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクト

【令和4年度予算額 100（100）百万円】  
 （令和3年度補正予算額 3,250百万円）

## <対策のポイント>

麦・大豆の需要を捉えた生産の推進により国産シェアを拡大するため、作付の団地化と営農技術の導入、農業支援サービスの活用等による産地の生産体制の強化・生産の効率化を支援します。あわせて、作柄変動の大きい国産の供給力を安定させるため、民間保管施設の整備や一時保管により安定供給体制を確立します。

## <事業目標> [平成30年度→令和12年度まで]

○ 小麦生産量の増加（76万トン→108万トン） ○ 大麦・はだか麦生産量の増加（17万トン→23万トン） ○ 大豆生産量の増加（21万トン→34万トン）

## <事業の内容>

## <事業イメージ>

### 1. 麦・大豆等水田農業の生産体制強化

#### 水田麦・大豆産地生産性向上事業

100（100）百万円

【令和3年度補正予算】2,148百万円

団地化の推進と営農技術の新規導入と併せて農業支援サービス等も活用した省力化の推進により、生産性の向上や環境に配慮した営農に向けて技術の新規導入を図る先進的な麦・大豆産地の取組に対し、ソフト・ハード両面から支援します。

### 2. 需要に応える供給の実現と国産使用拡大

#### ① 麦・大豆保管施設整備事業

【令和3年度補正予算】900百万円

国産麦・大豆の安定供給に向けた保管施設の整備や、保管施設の整備と一体的に行う処理加工施設の整備を支援します。

#### ② 麦類供給円滑化推進事業

【令和3年度補正予算】132百万円

国産麦の供給を円滑化するための一時保管を通じた安定供給体制の構築を支援します。

#### ③ 麦・大豆利用拡大推進事業

【令和3年度補正予算】69百万円

国産麦・大豆の利用拡大に向け、商品開発、マッチング等を支援します。

#### （関連事業）

#### 戦略作物生産拡大支援事業

87（97）百万円の内数

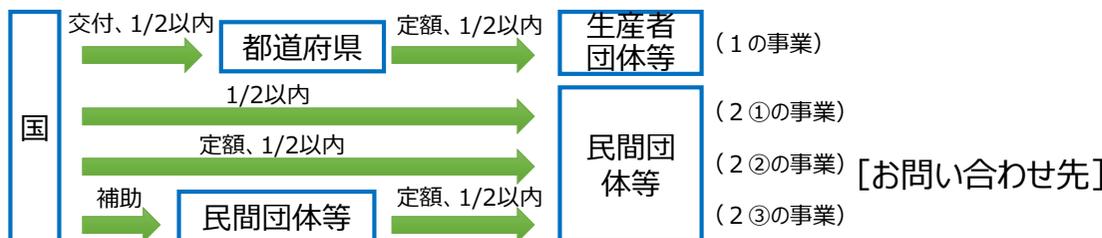
#### 農地耕作条件改善事業

24,790（24,790）百万円の内数

#### スマート農業の総合推進対策のうちデータ駆動型農業の実践・展開支援事業

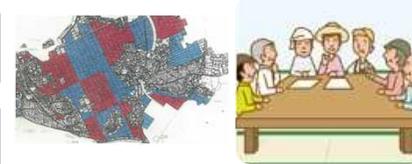
173（173）百万円の内数

## <事業の流れ>



### 1. 麦・大豆等水田農業の生産体制強化

#### 団地化の推進



団地化推進に向けた話し合い等の必要経費を支援（定額）

#### 営農技術の導入・畑地化実証支援



営農技術の導入や畑地化に向けた栽培実証を支援（定額）

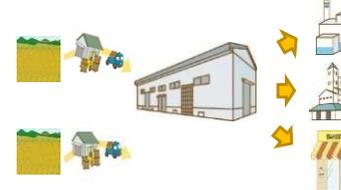
#### 施設整備・機械導入



生産性向上に必要な施設・機械導入等を支援（1/2以内）

### 2. 需要に応える供給の実現と国産使用拡大

#### 麦・大豆の安定供給



保管施設の整備に向けた支援（1/2以内）

#### 麦・大豆の利用拡大



国産麦・大豆の商品開発等を支援（定額、1/2以内）

(1、2①③（大豆）の事業) 農産局穀物課 (03-6744-2108)  
 (2②③（麦）の事業) 貿易業務課 (03-6744-9531)

# 麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクトの成果（事例）

## 下島松宮農集団（北海道恵庭市）

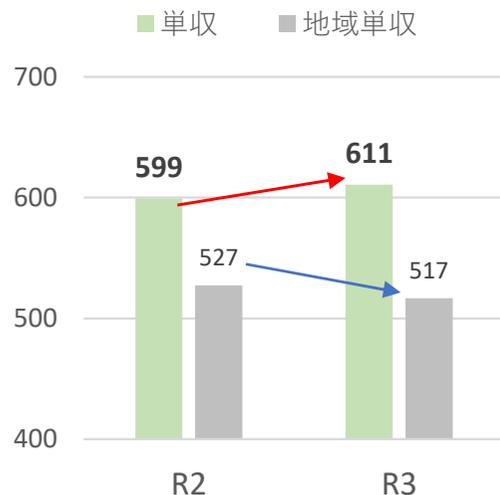
### 取組内容（品目：小麦）

- ◇ **需要に応じた生産**  
需給のミスマッチが生じているパン用小麦「ゆめちから」の作付けを減少させ、供給が追いついていないパン用小麦「春よ恋」の作付面積を拡大。
- ◇ **団地化の推進**  
土壌の排水性や作業効率に配慮して作付けの団地化を推進し、適正な輪作に取り組む。
- ◇ **コンバインの導入**  
これまでは収穫作業を外部委託していたが、コンバインを導入したことで適期収穫が可能となり単収が増加。作付面積の拡大も可能に。



### 事業効果

- 作付面積  
5.8ha (R2)  
→ **11.6ha (R3)**
- 単収  
599kg/10a (R2)  
→ **611kg/10a (R3)**
- 団地化率  
0% (R2)  
→ **63.6% (R3)**



## 農事組合法人なかしだファーム（宮城県大崎市）

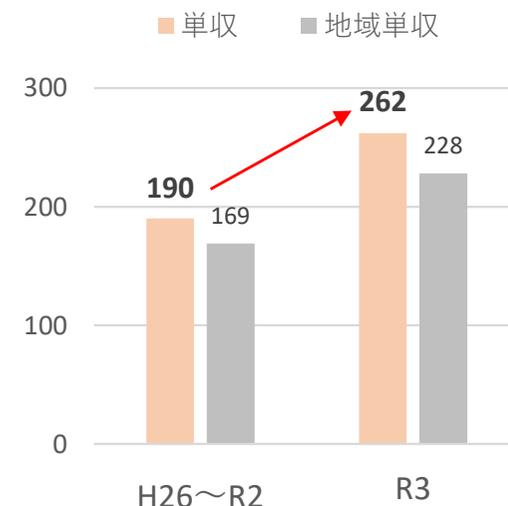
### 取組内容（品目：大豆）

- ◇ **ブロックローテーションの導入**  
水系別に数10ha規模で団地化することで作業を効率化。
- ◇ **排水対策**  
弾丸暗渠の施工により湿害を軽減。
- ◇ **苦土石灰による酸度矯正（土づくり）**
- ◇ **狭畦密植栽培の導入**
- ◇ **汎用コンバインの導入**  
適期収穫ができるようになり、作付面積の拡大も可能に。



### 事業効果

- 作付面積  
19ha (R2)  
→ **27ha (R3)**
- 単収  
190kg/10a (H26~R2)  
→ **262kg/10a (R3)**
- 団地化率  
61% (R2)  
→ **78% (R3)**
- 生産コスト  
64,913円/10a (R2)  
→ **58,468円/10a (R3)**  
(全国平均生産コスト：65,032円 H28~R2：5中3)



# (参考1) 大豆栽培の改善に向けて

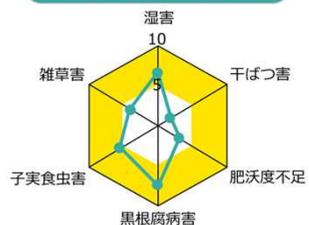
## ○ 診断に基づく大豆栽培改善技術導入支援 (スマホで簡単！大豆診断 楽々ナビゲーション)



18項目のアンケートに  
答えてリスクを簡易診断



### 簡易診断の結果



数値が大きい外側の項目ほどリスクが高くなっています。  
リスクが高い項目を優先的に診断しましょう！

回答に戻る

オレンジ色がリスクの高い項目です。

- 排水不良・湿害
- 干ばつ
- 肥沃度不足
- 黒根腐病
- 子実食虫害
- 雑草害



二次元バーコードから診断ページに  
ジャンプします！

結果に基づいて  
対策を詳細に解説



## ○ 大豆新技術活用の手引き



### I. 施肥・耕起技術

1. 有機質資材や酸度矯正資材の施用
2. 有機質資材の施用効果データベースとその活用方法
3. 混合堆肥複合肥料の製造とその利用
4. 土壌や立地条件に対応した排水対策の徹底

### II. 播種技術

1. 播種について
2. アップカットロータリによる耕うん同時畝立て播種栽培技術
3. 逆転ロータリとサイドディスクを活用した大豆の新しい工程浅耕播種技術
4. チゼルプラウによる深耕と小暗渠浅耕播種技術を組み合わせた栽培技術
5. 真空播種機を用いたスリット成形播種
6. ほ場の排水性に応じた播種技術の適用による大豆・麦の多収栽培

### III. 栽培管理(除草、病虫害防除)

1. 難防除雑草の総合的防除技術
2. ダイズ立枯性病害の対策
3. LEDや誘引剤トラップを利用したダイズカメムシ類の簡易発生予察
4. チョウ目害虫による被害とマメシクイガの診断と対策
5. 帰化アサガオ類の侵入防止技術

### IV. 収穫

1. 汎用コンバインによる収穫

### V. 栽培支援技術

1. ガイダンスシステムを用いた農作業
2. 大豆診断！楽々ナビゲーション♪

# (参考2) 全国豆類経営改善共励会について



## 第50回全国豆類経営改善共励会

# 先進豆農家を表彰 いますぐ応募!



申込  
締切

10/29金

申込要領(裏面)をご参照の上、  
都道府県共励会事務局へ  
お申込みください。

部門

- 大豆 家族経営の部
- 大豆 集団の部
- 小豆・いんげん・落花生の部

表彰式

令和4年6月27日 コートヤード・マリオット銀座東武ホテル(東京都中央区銀座6-14-10) ※予定

主催	一般社団法人 全国農業協同組合中央会 全国新聞情報農業協同組合連合会		
後援	農林水産省 全国農業協同組合連合会 公益財団法人 日本豆類協会	協賛	全国味噌工業協同組合連合会 全国納豆協同組合連合会
事務局 (問い合わせ先)	全国新聞情報農業協同組合連合会(JA新聞連) 〒110-8722 東京都台東区秋葉原2-3 ☎03(6281)5816 eメール:mamekyo@agrinews.co.jp		

### 豆生産をめぐる状況について

令和2年3月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」では、令和12年度の大豆の生産努力目標として、34万tという意欲的な数字を掲げている。同計画では、大豆の需要について、健康志向の高まりにより堅調に伸びているなかで、さらなる拡大を図る必要があるとしている。

また、「食料・農業・農村白書」では、需要が堅調であることに加え、国産大豆は、食味等の品質面の良さから、ほぼ全量が食用に向けられていると評価している。

ただし、国産需要がある一方で、実需者からは安定供給が求められており、産地には労働負担の増加や気象条件など、様々な課題もある。

こうしたなか、JAグループでは、高まる国産需要に応えるべく、6月10日に決定した「令和4年度水田農業対策等に関するJAグループの基本的考え方」において、需要に応じた生産と安定供給に向け、地域実態に応じた生産性向上など、万全な対策の必要性を提起した。

また、農林水産省では、「麦・大豆増産プロジェクト」を推進しており、生産性向上に向けた連坦化・団地化や、収量向上に資する土づくりや新品種の開発等を推進している。

国産需要の拡大に応えるには、生産性と品質を向上させ、実需者とも連携しながら、消費者が求める大豆を安定供給できるようにすることが重要である。

### 実施要領

#### 参加資格

次の要件を全て満たす個人、法人または集団(任意団体等)であること。

- (1)原則として過去3年以上、豆類を作付けた実績があること。ただし、経営面積が1㌔以上であること。
  - (2)出品豆類の作付面積が次の基準を満たすこと。
    - ①大豆 家族経営の部  
家族経営(個人・法人)  
全国1㌔以上
    - ②大豆 集団の部  
集団(法人・任意団体等)北海道10㌔以上、都府県3㌔以上
    - ③小豆・いんげん・落花生等の部  
家族経営(個人・法人)  
北海道30㌔以上、都府県10㌔以上
    - ④集団(法人・任意団体等)  
北海道1㌔以上、都府県30㌔以上
- なお、黒大豆など特定用途大豆では、家族経営(個人・法人)は北海道1㌔以上、都府県30㌔以上。集団(法人・任意団体等)は北海道3㌔以上、都府県1㌔以上。

※出品面積は、出品豆類の作付面積の全てとし、豆類生産と加工を別々の農業者または農業者で構成する組織が行い、契約により両者が結びついている場合は、共同で応募することも可能とする。

- (3)日頃から耕種技術の改善に努め、出品豆類の品質・収量が当該市町村および都道府県の平均より相当程度高

い実績を有すること。  
(4)経営規模の拡大、生産コストの低減など、生産性の高い豆作経営の定着を図り、経営面から他の範となる実績を有すること。  
(5)実需者のニーズに対応した品種への転換や栽培方法の改善、実需者・消費者との連携による契約栽培など販売方法の改善、消費拡大対策の実施など販売を想定した豆類生産の実績を有すること。  
(6)原則として過去1か年以内に本共励会において全国表彰されていないこと。  
(7)集団については、組織的生産活動に顕著な成果を有すること。

#### 参加申し込み

- (1)参加を希望する経営体および集団は、期日までに参加申込書を当該都道府県の豆類経営改善共励会事務局長(以下、都道府県共励会事務局長)

- (2)都道府県共励会事務局長は、参加申し込みのあった経営体および集団を取りまとめ、期日までに当該地方(農政局ブロックおよび北海道)共励会事務局長(以下、ブロック共励会事務局長)に報告する。

- (3)ブロック共励会事務局長は、都道府県共励会事務局長から参加報告のあったものについて期日までに取りまとめ、全国豆類経営改善共励会事務局長に報告する(報告先は、全国新聞情報農業協同組合連合会内事務局)。

#### 褒賞の区分

褒賞の区分は次のとおりとする。  
農林水産大臣賞、農産局長賞、全国農業協同組合中央会会長賞、全国農業協同組合連合会会長賞、日本豆類協合理事長賞、日本農業新聞会長賞。

#### 今後の日程

- 令和3年10月29日(金) 都道府県共励会事務局長への参加申し込み締め切り  
11月5日(金) 各ブロック共励会事務局へ事前に参加申込書を報告  
令和4年 1月12日(金) 都道府県共励会事務局長から各ブロックおよび北海道 共励会事務局長へ参加申込書を提出 ※事前の参加申込数から変更は可能  
1月19日(金) 各ブロックおよび北海道共励会事務局長から全国共励会事務局長へ参加申込書を提出  
3月31日(木) 都道府県共励会における審査を実施し、優秀経営体および集団を推薦し、書類を各ブロックおよび北海道共励会事務局長へ提出  
4月22日(金) 各ブロックおよび北海道の審査委員会はブロック審査を実施し、優秀経営体および集団を全国共励会事務局長へ推薦  
5月18日(水) 全国審査  
6月27日(月) 表彰式

※詳しくはJA新聞連ホームページまで  
<http://www.ja-shimbunren.ne.jp>

